



カケハシ・プロジェクト（招へいプログラム）の記録

対象：日米協会若手研究者招へい

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」として、米国より大学院生4名が各々の日程で日本研究のため来日しました。各地の大学や民間団体、国立国会図書館などで研究に励み、幅広く日本を理解する機会を持ち、各々の関心事項や体験についてSNSを通じて对外発信を行いました。また、報告会では訪日経験を活かした、帰国後のアクションプラン（活動計画）について発表しました。

【参加国・人数】

米国：4名（バージニア大学、ブリティッシュ・コロンビア大学、ハーバード大学、コロンビア大学）

【訪問地】

東京都(4名)、栃木県(1名)、京都府(1名)、大阪府(1名)

2. 日程

(1) バージニア大学

- 7/4(木) 【来日】
- 7/8(月) 【オリエンテーション】一般社団法人日米協会
【意見交換】特定非営利活動法人環境修復保全機構（ERECON）
【視察】東京農業大学
- 7/10(水) 【意見交換】特定非営利活動法人シェア＝国際保健協力市民の会
- 7/11(木) 【視察】特定非営利活動法人ピープルズ・ホープ・ジャパン
- 7/13(土) 【講義】上智大学（日本の国際開発について）
- 7/15(月) 東京都から京都府へ移動
- 7/17(水) 【文化体験】祇園祭
- 7/18(木) 【発表】京都大学東南アジア地域研究研究所
- 7/19(金) 【発表】京都大学東南アジア地域研究研究所
- 7/22(月) 京都府から東京都へ移動
- 7/24(水) 【意見交換】公益財団法人日本財団
- 7/25(木) 【意見交換】特定非営利活動法人シェア＝国際保健協力市民の会
- 7/26(金) 【講義】公益財団法人 笹川平和財団（日本と東アジアの《男らしさ》再考）
- 8/5(月) 【意見交換】外務省国際協力局民間援助連携室
- 8/8(木) 【成果報告会】一般社団法人日米協会
- 8/10(土) 【離日】

(2) コロンビア大学

- 7/9(火) 【来日】
【オリエンテーション】一般社団法人日米協会
- 7/10(水) 【視察】国立国会図書館
- 7/11(木) 【視察】外務省外交史料館
- 7/15(月) 【意見交換】梅森 直之 早稲田大学教授
- 7/17(水) 【意見交換】浅古 弘 早稲田大学名誉教授
【意見交換】蘭 信三 上智大学教授
- 7/18(木) 【意見交換】濱下 武志 東洋文庫研究部長
- 7/23(火) 【成果報告会】一般社団法人日米協会
- 7/24(水) 【離日】

(3) ハーバード大学

- 8/4(日) 【来日】
- 8/5(月) 【オリエンテーション】一般社団法人日米協会
- 8/6(火) 【視察】国立国会図書館
- 8/14(水) 【視察】太田記念美術館
- 8/15(木) 【視察】サントリー美術館
- 8/16(金) 東京都から栃木県へ移動
- 8/17(土) 【視察】那賀川町馬頭広重美術館
栃木県から東京都へ移動
- 8/20(火) 【意見交換】小林 ふみ子 法政大学教授
- 8/25(日) 【意見交換】内藤 正人 慶応義塾大学教授
- 8/27(火) 【意見交換】山本 聡美 早稲田大学教授
- 8/29(木) 【成果報告会】一般社団法人日米協会
- 9/2(月) 【離日】

(4) ブリティッシュ・コロンビア大学

- 9/1(日) 【来日】
- 9/2(月) 【オリエンテーション】一般社団法人日米協会
- 9/6(金) 【発表】NPO 法人ファザーリング・ジャパン「FJ アカデミア・父親に関する研究勉強会」(東京会場)
東京都から大阪府へ移動
- 9/13(金) 【発表】NPO 法人ファザーリング・ジャパン「FJ アカデミア・父親に関する研究勉強会」(大阪会場)
- 9/14(土) 【意見交換】第29回日本家族社会学会大会
- 9/15(日) 【意見交換】第29回日本家族社会学会大会
大阪府から東京都へ移動
- 9/26(木) 【成果報告会】一般社団法人日米協会
- 10/1(火) 【離日】

3. プログラム記録写真

(1) バージニア大学



7/10【意見交換】特定非営利活動法人シェア＝国際保健協力市民の会



7/11【視察】特定非営利活動法人ピープルズ・ホープ・ジャパン

(2) コロンビア大学



7/23【成果報告会】一般社団法人日米協会



7/23【成果報告会】一般社団法人日米協会

(3) ハーバード大学



8/17【視察】那賀川町馬頭広重美術館



8/29【成果報告会】一般社団法人日米協会

(4) プリティッシュ・コロンビア大学

	
9/6【発表】NPO 法人ファザーリング・ジャパン「FJ アカデミア・父親に関する研究勉強会」（東京会場）	9/26【成果報告会】一般社団法人日米協会

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ 私は東京滞在中に国際支援団体にて3度の面談を行い、日本のNGOで働く17人の方にインタビューをすることができました。この機会により、論文執筆のためのデータ収集が進展しました。まず、日本のNGO組織の歴史がよく分かりました。以前から文献を読み、日本のNGOの多くがカンボジア内戦の頃にタイ・カンボジア国境で創設されたことは知っていましたが、その理由までは分かりませんでした。しかし日本滞在中、その歴史的瞬間に日本で何が起こっていたか、カンボジアのクメール・ルージュに関する強力なメディア報道、ボランティア団体の形成、1998年の特定非営利活動促進法(NPO法)成立までの過程におけるボランティア団体の活動等について、当時からNGOの職員として働いてきた日本人から直接お話を聞くことができました。NGOに関する日本の歴史的背景を理解することは、日本のNGOが海外で企画・実施するプログラムの種類を理解するために不可欠です。また、JICAと外務省の優先順位、支援要件及び資金調達の手続きについても理解が深まりました。日本のNGOの本部がカンボジアの事務所をどのように支援しているかも学びました。日本のNGOによる報告や資金調達手続き等は、ワシントンDCのNGOとも多くの類似点がありましたが、意思決定プロセスは日米で少し異なっていることも分かりました。

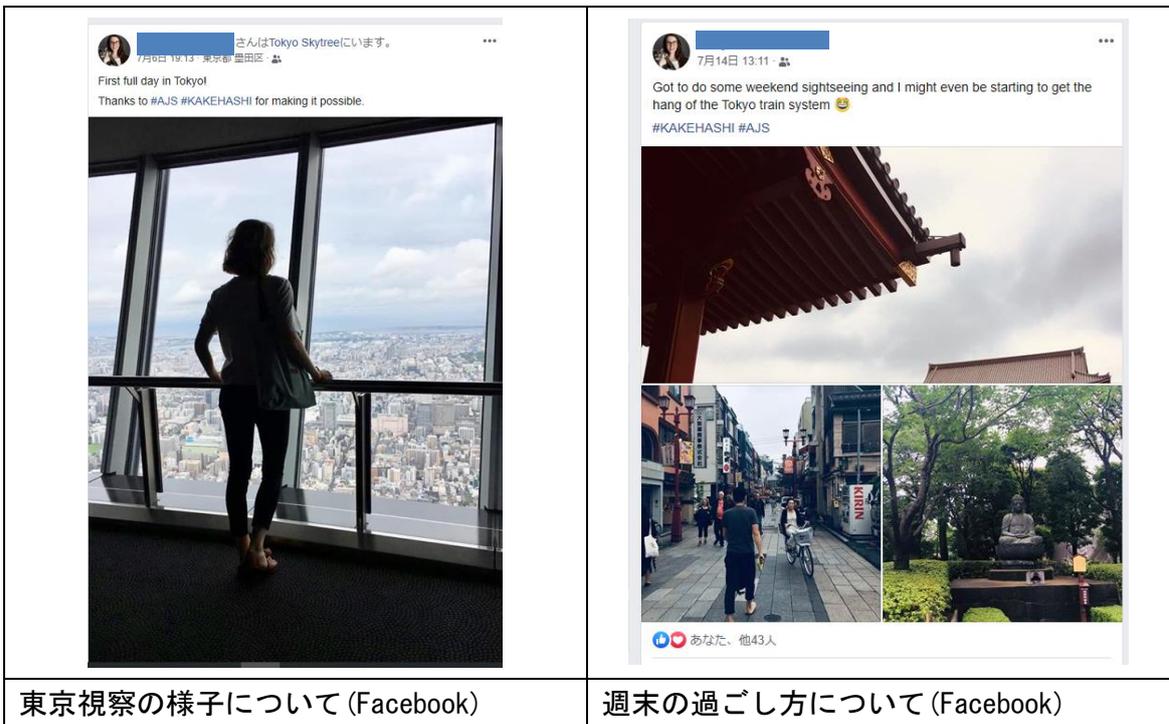
◆ 日本を再訪して日本人との絆をより強めることができ、また自分の研究を進めることができ、短いながらも貴重な機会を頂いたことに感謝しています。以前共同研究を行った日本の研究者とも再会することができ、大変幸いでした。当然ながら、私たちの関心を持っていることは人それぞれです。しかし、日本人の研究者が取り組んでいる研究の種類や彼らが答えを見つけようとしている課題を理解することは、異文化間学術交流の基盤であり、自分の研究の根底を振り返ることにもつながります。グローバル化が進む今日の世界では、国家レベルで過去と現在を理解し、歴史を捉えて人間社会の変化について考えるだけでは不十分です。個人レベルで絆を築き、過去と現在を包括的に理解するための機会を頂き、大変ありがたく思います。

◆ 三人の教授にお会いしましたが、それぞれの方からアドバイスを頂き、私の研究と翻訳プロジェクトへの興味を示して頂きました。また先生方と再会して研究するのを楽しみにしています。また、太田記念美術館に訪れた際には、驚くべき数の絵画作品のコレクションに浸ることができ、この美術館の価値を知りました。特別にこのような展示を拝見する機会を得ることができてとても嬉しかったです。

◆ 最もやりがいを感じた部分は、NPO 法人が主催するイベントでプレゼンテーションを行ったことです。一般の聴衆に対して日本語で自分の研究について発表することは難しかったですが、学者として成長する上で良い経験となったと思います。また、学術関係者以外の人々と出会い、研究を発展させることができました。質疑応答では聴衆から貴重な意見を頂きました。すべてのプレゼンテーションが終了した後に行われた座談会では、私の研究テーマについて他のパネリストとも意見交換ができました。2 日間にわたる学会で、日本の学者と交流し、アイデアを交換することで、日本の研究者が私と同様の研究テーマをいかに分析・追究しているかを知りました。今回日本では、2 年以上前にインタビューした人へのフォローアップ・インタビューと、これまで話をする機会がなかった個人への新規インタビューを実施しました。インタビューで収集したデータから、現在追究している問いに対する新たな洞察を得られて、私の主張と研究をより強く裏付けることができると思います。

5. 参加者の対外発信

	
<p>FJ アカデミア「父親に関する研究勉強会」について（記事出典： http://zushi.life/fj-academia/）</p>	<p>外務省外交史料館所属の史料閲覧の経験について (Facebook)</p>



6. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

◆ このプログラムに参加して、私は研究データを収集するだけでなく、今後の研究に必要な協力者の連絡先を集めることができました。今後は米国に戻り、博士課程の卒業に向けて、さらなる調査を行います。今年は、1年間のフィールドワークのデータを分析して、論文を書き、博士研究員のポストにも応募する予定です。京都大学東南アジア地域研究研究所を訪問した際に、同研究所が提供する博士研究員のフェローシップに応募するように勧められました。長期的な目標としては、大学教授や国際開発シンクタンクまたは米国国際開発庁の専門研究者を目指していますので、今後も熱意を持ち続けて研究に励みたいと思います。今回の訪日で日本や国際開発に対してさらに興味が深まりました。東南アジアを対象とする JICA の研修・教育プログラム等についても研究することを検討しています。そしていつか教授として、米国の学生を連れて日本を訪問したいと思います。

◆ 異文化理解と国際関係を維持する上で、個人の役割はこれまで以上に重要になっています。これからも引き続き研究に励み、二国間のカケハシとして活躍していきたいです。

◆ まだ実行できるか定かではありませんが、3か月以内に本を出版するために、引き続き翻訳作業を行っていきます。また、ボストン美術館のスタッフと共に日本語版を公開したいと思います。

◆ 現在、インタビューで集めたデータを書き起こして研究論文にまとめています。引き続き日本で出会った学者や協力者の方々と連絡を取り、研究をより深めて参ります。